

635号 東部地域畜産経営技術推進指導協議会 西部地域畜産経営技術推進指導協議会 2022.4.10
富山県東部家畜保健衛生所 富山県西部家畜保健衛生所

令和4年度新スタッフ..... 1	ニワトリヌカカの襲来に備えましょう 5
令和4年度 富山県畜産振興推進方針 ... 2	防疫情報..... 6
令和4年度 主な畜産関係事業の概要 ... 3	めん山羊等の伝達性海綿状脳症(TSE) 検査対象月齢変更..... 6
野生いのししの豚熱感染が拡大 対策強化を!!..... 4	お知らせ 6
県畜産関係職員人事異動 5	

令和4年度新スタッフ

新年度を迎え、新しい体制がスタートしました。今年度も家畜伝染病の防疫、家畜の生産性向上、畜産物の安全・安心確保、畜産環境保全等に取り組んでまいりますのでよろしくお願いいたします。



令和4年度 富山県畜産振興推進方針

今年2月、意欲ある担い手が生産拡大や競争力の強化に取り組める経営環境を実現し、富山の美味しい畜産物によって、生産者と消費者が幸せになれる、未来につながる畜産経営を目指して、令和4年度に向けた畜産振興の取組みとなる富山県畜産振興推進方針を策定しました。

今後は、関係機関・団体と協力し、目標達成のために各種施策を総合的に推進します。

1 基本方針

生産基盤の整備や飼養技術の高位安定化などにより、畜産経営の維持拡大と畜産物の安定的な供給、県産畜産物のブランド化及び消費拡大を推進する。

高病原性鳥インフルエンザ、豚熱などの家畜伝染病防疫対策の強化などにより、発生予防とまん延防止に努める。

地域と調和した畜産経営を推進するとともに、畜産が持つ多面的機能を活用し、耕作放棄地等の有効利用など地域活性化の取組みを進める。

2 主要目標指標

区分		令和4年度目標	(参考) 令和3年度見込
畜産物の生産量 (t)	生乳	12,200	12,216
	牛肉	640	602
	豚肉	4,150	4,124
	鶏卵	16,000	15,700
飼料自給率 (%) (飼料作物面積等から推定)		25.0	24.0
飼料用稲面積 (ha) (県内生産・流通)	飼料用米	1,000	965
	稲WC S	420	408
	計	1,420	1,373
水田放牧等の面積 (ha)		39.5	31.8

※ 令和4年度産出額の目標値は85億円(【参考】令和2年度：78億円)

3 重点推進事項

【生産基盤の強化】

- (1) 国内の他の産地や輸入畜産物との競争に打ち勝つため、国の畜産クラスター事業等による施設・機械の整備支援や公共牧場の活用、畜産スマート技術の導入等への支援により生産基盤の維持・拡大を推進。
- (2) 優良種畜(受精卵、高能力種豚)や性判別精液の導入による家畜の改良増殖を推進。

【経営競争力の強化・新たな担い手の確保】

- (1) 畜産物の価格安定制度等の活用により経営安定を図り、安定生産と供給を推進。
- (2) ㈱富山食肉総合センターでの安全安心な食肉の供給を図るとともに、エコフィードなどを活用した県産畜産物のブランド化や消費拡大の取組みを推進。
- (3) 農場H A C C Pや畜産G A Pの推進、新規就農希望者と遊休施設等のマッチング、法人化による経営継承など新たな担い手等の確保対策を推進。

【地域と調和した経営の推進】

- (1) 飼料用米・稲WC Sの生産・利用の推進、未利用資源の活用による飼料自給率の向上や、良質堆肥を活用した耕畜連携による循環型農業を推進。
- (2) 家畜伝染病の発生予防とまん延防止のため、豚熱ワクチンの接種、野生動物の侵入防止、消毒徹底などの飼養衛生管理対策と防疫資材の確保など体制整備を推進。
- (3) 耕作放棄地等での簡易放牧や蜜源等としての活用を推進。

(農業技術課畜産振興班 後藤主幹)

令和4年度 主な畜産関係事業の概要 ※はR3.2月補正			予算額 (千円)
家畜改良増殖 対策事業	大家畜牛群改良推進事業	乳用牛及び肉用牛の牛群能力の向上	2,353
	畜産共進会開催事業	県内外で開催される共進会開催費への支援	1,034
	優良肉豚生産システム事業	優良な肉豚を生産するために必要な種豚の導入等に対する支援	1,825
	優良牛群整備推進事業	酪農家や肉牛農家で受胎移植技術の活用	4,531
畜産経営向上 対策事業	畜産経営総合指導體制整備強化事業	畜産コンサルタントによる総合支援指導	3,946
	畜産担い手ナビゲート事業	高校生の畜産体験、企業参入支援と情報一元化	461
	畜産環境保全指導事業	畜産環境問題等の発生防止のための総合指導	419
	養豚体制整備事業	国の「養豚経営安定制度」における生産者積立金への助成	9,100
	食肉衛生基盤強化事業	(株)富山食肉総合センターの施設整備、肉畜集荷対策への支援	32,816
飼料生産総合 対策事業	飼料利活用高度化事業	飼料作物の優良品種の選定、飼料・土壌等の成分分析	1,378
	牧場経営安定対策事業	公共牧場へ預託事業等の経費の一部助成、簡易放牧支援等	5,411
	(拡)「とやまのエコフィード」利用畜産物ブランド化推進事業	エコフィードの需給マッチング、酒粕を給与した「とやま和牛」のブランド化推進	5,650
	(新) 富山のお米で育った「とやまポーク」販売促進事業	富山米を給与した「とやまポーク」の販売促進、飼料用米の利用拡大及び養豚の生産拡大	3,000
とやま畜産基 盤強化事業	畜産施設継承円滑化事業	畜産農家の離農・遊休施設の継承を円滑に行うための取組みを支援	600
	富山の畜産DXスタートアップ事業	DX(デジタル化による変革)の活用方法や整備計画等を検討	600
	(新) 畜産振興拠点施設整備事業 ※	畜産・酪農の収益力・生産基盤の強化を図るため、畜舎や堆肥舎の整備に対して支援	109,776
	(新) とやまの畜産スマート技術導入支援事業 ※	生産性の向上や省力化等のための畜産スマート技術の導入を支援	10,500
安心で美しい郷づくり事業		動物達とのふれあいに係る取組みや蜜源確保等	592
家畜伝染病予防事業		家畜伝染病予防法に基づく検査・指導等	27,973
家畜伝染病防疫体制強化整備事業		消毒機器等の整備、初動防疫体制の強化、防疫資材の備蓄、疾病迅速診断機器の整備	3,822
豚熱ワクチン接種推進事業		豚熱ワクチン接種の推進とモニタリング検査	14,758
野生いのしし家畜伝染病防疫対策事業		野生いのししの豚熱及びアフリカ豚熱検査、診断機器の整備、病原体侵入の予防	8,790
畜産物安全性 確保総合対策 事業 (農産食品課)	飼料安全性確保強化指導事業	飼料の安全性確保と適正な使用・管理の指導	1,499
	動物医薬品取締指導	動物用医薬品の取締業務と適正使用の指導	563
	畜産物安全性確保対策事業	家畜衛生管理技術の向上のための指導・調査豚丹毒ワクチンの接種費用の一部助成	7,339

詳細については、農業技術課畜産振興班、農産食品課食品安全係、広域普及指導センター、家畜保健衛生所にお問い合わせください。

(農業技術課畜産振興班 後藤主幹)

野生いのししの豚熱感染が拡大 対策強化を!!

3月14日、山口県岩国市において、同月20日には広島県大竹市で野生いのししにおける豚熱感染がいずれも県で初めて確認され、同月23日、島根県、広島県および山口県の3県が飼養豚等におけるワクチン接種推奨地域に指定されました。野生いのししにおける豚熱の感染はついには九州への拡大が危惧されるどころです。また、3月25日には栃木県那珂川町の養豚場において国内77例目となる豚熱の発生が確認されました。

令和4年3月11日に開催されました「野生いのししにおけるアフリカ豚熱・豚熱対策シンポジウム」より、その内容を抜粋しますので、ご一読いただき、豚飼養者、関係者におかれましては豚熱対策の更なる強化をお願いいたします。

豚熱 (CSF) について

我が国における26年ぶりの発生から3年半が経過し、CSF対策への取り組みの結果、農場のバイオセキュリティは強化され、野生いのししが豚へ直接接触し感染するリスクは減少している状況と考えられる。野生いのししが経口ワクチンを確実に摂食し、十分な免疫を獲得するとともに、捕獲により感受性個体(注)を減少させ、環境中のCSFウイルスを減らすことが野生いのししにおけるCSF対策において重要。野生いのししに関するCSFサーベイランスの結果、経口ワクチンを散布しているにもかかわらず感受性個体が増加している地域がみられる。そのような地域ではCSFウイルスが侵入すると、感染が広がりやすいため感染の拡大が懸念される。豚熱ワクチンを接種しているからと油断せず、引き続き養豚場におけるバイオセキュリティを向上させることが重要。(注：遺伝子検査陰性かつ抗体検査陰性、すなわち感染しておらず抗体もない個体)

アフリカ豚熱 (ASF) について

日本では未発生のため、動物検疫所の厳格な携帯品検査により、不法な肉製品の持ち込みによるASFウイルスの国内侵入を防ぐことが重要。中国におけるASFの発生から4年が経ち得られた教訓は、ASFが拡散した原因は人及び餌で、発生事例の約4割に関連していた。ASFウイルスは人や輸送を介し農場に侵入するとともに、残飯などの汚染飼料を給餌したことにより給餌システムを介して感染が急激に広がった。徹底した消毒のみ有効で、農場におけるバイオセキュリティが鍵となる。

いのししの生態と行動の変化について

野生いのししは耕作放棄地等の餌が豊富な場所に生息し、メスは1km以内の範囲で定住し行動する(この行動圏を定住地域と呼ぶ)。欧州で行われた調査研究によると、妊娠したいのししは安心して出産ができる場所に出産床を作り定住する。いのししの出産は春にピークを迎え、夏には子供を連れていくつかの定住地域を移動する。秋から次の出産を迎える春までは行動範囲が拡大し、行動圏を他の成獣メスと共有する。生後1~2歳の亜成獣のいのししの行動圏は母親の通常の行動圏まで拡大し、個体によっては親の行動圏を越え分散を開始する。一方、3歳以上のオスの成獣いのししは単独で複数のメスの行動圏をまたぐように行動する。

また、本シンポジウムの講師であった宇都宮大学小寺准教授は、第54回獣疫医学学術集会「いのししの生態から考える豚コレラ防疫」の中で、野生いのししとCSF拡散リスクの関係について次のように推察しています。年齢に関して、生後1~2歳の亜成獣は最もリスクが高い。性別に関して、成獣のオスはメスよりもリスクが高い。

季節について、メスにおいて秋から翌年の出産を迎える春までリスクが高まる。

最後に

春は雪解けが進み、野生いのししは出産シーズンを迎えるため行動が活発となり、CSFウイルスの拡散リスクが高まります。今一度、飼養衛生管理の再確認を行い、不備が確認された際は早急な改善を行い、バイオセキュリティのさらなる向上をお願いいたします。

(西部家保防疫課 伊勢係長)



(出典：農林水産省ホームページ)

県畜産関係職員人事異動

4月1日及び3月31日(退職)付けで、以下のとおり県の畜産関係職員が異動しました。(敬称略)

区分	氏名	新所属	旧所属
農林水産部	松本 智広	理事(昇任) 農林水産部次長、農林水産部参事事務取扱	総合県税事務所次長 企画管理課長事務取扱
	野尻 直隆	農林水産部次長 兼 厚生部参事	農林水産部参事 兼 厚生部参事
	宮田 義人	農林水産部参事(昇任)	農林水産部参事 農村整備課長事務取扱
	山下 大樹	農林水産部参事(昇任)	森林政策課長
農産食品課	沖村 重雄	農産食品課副主幹 食品安全係長事務取扱	農業技術課副主幹(畜産振興班)
	本多 里幸	主任	農業技術課主任
農業技術課	雄川 洋子	課長	農林水産企画課企画班長
	北本 孝登	課長補佐 企画調整係長事務取扱	森林政策課課長補佐 みどり企画係長事務取扱
	大川内 康郎	副主幹(畜産振興班)	農林水産企画課副主幹
	松原 久美子	主任	農業経営課主任
広域普及指導センター	草別 行夫	農業技術課主任専門員	副主幹普及指導員
	樋口 愛里	農業技術課技師	新規採用
東部家畜保健衛生所	神吉 武	環境課長(昇任)	西部家畜保健衛生所環境課長
	柿澤 敦子	係長	東部家畜保健衛生所主任
	槻尾 里佳	主任	農産食品課主任
	竹中 悠人	主任(昇任)	東部家畜保健衛生所獣医師
西部家畜保健衛生所	台蔵 正司	所長(再任用)	西部家畜保健衛生所長
	稲畑 裕子	環境課長	東部家畜保健衛生所環境課長
【転出】	串田 泰彦	農林水産総合技術センター農業研究所長(昇任)	農業技術課長
	古川 久美子	働き方改革・女性活躍推進室主幹(昇任)	農業技術課課長補佐 企画調整係長事務取扱
	山崎 一浩	農村振興課副主幹 農村活性化係長事務取扱	農産食品課副主幹 食品安全係長事務取扱
	田所 百愛	高岡農林振興センター普及指導員	広域普及指導センター普及指導員
【退職】	南 理	退職	農林水産部次長
	笹原 しずゑ	退職	東部家畜保健衛生所主任

ニワトリヌカカの襲来に備えましょう

ニワトリヌカカが鶏を吸血する際に、唾液とともにロイコチトゾーン・カウレリー (*Leucocytozoon caulleryi*) という原虫が注入された場合、赤血球に寄生した原虫は全身臓器に到達し、感染鶏は強い症状を示して死亡することがあります(ロイコチトゾーン症)。症状としては、貧血、緑便、発育遅延、産卵低下および産卵停止、強度の貧血による肉冠(とさか)・肉垂の退色、各組織の出血による急死および肺組織の出血による咯血などを呈します。ヌカカ成虫の活動時期である初夏から秋にかけて、主に水田地帯や山間部の養鶏場で発生が見られます。本県では昨年8月と10月に3戸の養鶏場で貧血や下痢等を伴う本病による死亡事例の発生がありました。

採卵鶏にはサルファ剤等の薬品が使用できないため、ヌカカ対策を実施して感染の機会を減らすことが重要です。ヌカカはいわゆる「蚊」の仲間ではなく、体長1~2mm、幅0.5mm程度と「蚊」と比べて非常に小さいため網戸を通過してしまいます。解放鶏舎でのヌカカ対策としては、発生源を断つこととピレスロイド系殺虫剤等(ペルメトリン乳剤、ETB乳剤等)による忌避効果・殺虫効果が中心になります。ヌカカは耕作放棄地などの手入れがされていない土壌で発生しやすいことから、除草や耕起等により畜舎周辺環境を整備することで個体数の減少が期待できます。田植え等で忙しくなる前に準備を整えておきましょう。

(東部家保環境課 神吉課長)

防 疫 情 報

全国の主な家畜伝染病の発生

高病原性鳥インフルエンザ（法定伝染病）

（3月30日現在）

事 例	発生日	発生場所	経営形態	飼養頭数	血清型
17	3月25日	宮城県石巻市	肉用種鶏	3.2万羽	H5N1

豚熱（CSF）（法定伝染病）

（3月25日現在）

事 例	発生日	発生場所	経営形態	飼養頭数	備 考
77	3月25日	栃木県那珂川町	一貫経営	1,200頭	ワクチン接種地域であるため、制限区域は設定しない

県内の主な家畜伝染性疾病の発生

病 名	畜 種	発生日	戸 数	頭羽数	備 考
牛伝染性リンパ腫（届出伝染病）	牛	2月28日	1	1	
		3月16日	1	1	
牛ロタウイルス病	牛	3月3日	1	1	
		3月8日	1	6	
		3月22日	1	1	
牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症	牛	3月3日	1	1	
豚丹毒（届出伝染病）	豚	2月24日	2	2	と畜場発見
		2月25日	2	4	
		2月28日	2	6	
		3月10日	1	2	
		3月14日	1	2	
		3月17日	1	1	
牛尿路コリネバクテリア感染症	牛	3月28日	1	1	

国内の野鳥等からの高病原性及び低病原性鳥インフルエンザウイルスの検出

（3月31日現在）

事 例	検体回収日	検体回収場所	種 名	病原性	血清型
60~74 15事例	3月4日~ 3月31日	北海道佐呂間町、 羅臼町、北見市、 浜頓別町、根室市、 美幌町、札幌市 岩手県久慈市、 八幡平市	ハシブトガラス、 オジロワシ、 オオワシ、 オオハクチョウ	8 検体:高病原性 7 検体:検査実施中	6 検体:H5N1 2 検体:NA亜型 判定不能 7 検体:検査 実施中

めん山羊等の伝達性海綿状脳症（TSE）検査対象月齢変更

TSEは牛海綿状脳症（BSE）と同じくプリオンを原因とするめん羊及び山羊並びに鹿（以下めん山羊等）の疾患で、法定伝染病に指定されています。これまで家畜伝染病予防法に基づき12か月齢以上の死亡しためん山羊等を対象に、TSEサーベイランス検査を実施してきました。この度家畜伝染病予防法施行規則が改正され、令和4年4月1日からTSEの検査対象月齢が18か月齢に引き上げられました。めん山羊飼養者及び診療獣医師の皆様におかれましてはご承知おきくださいますよう、お願い申し上げます。

（西部家保検査課 渡辺獣医師）

☆ お 知 ら せ ☆

催 事 等	期 日	場 所
北陸三県和牛子牛市場	4月21日	北陸三県家畜市場（金沢市）

発行所 富山県東部家畜保健衛生所 http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1687/index.html
 〒939-3536 富山市水橋金尾新4-6 電 話 (076) 479-1106 F A X (076) 479-1140
 編集者 稲畑 裕子（富山県西部家畜保健衛生所）